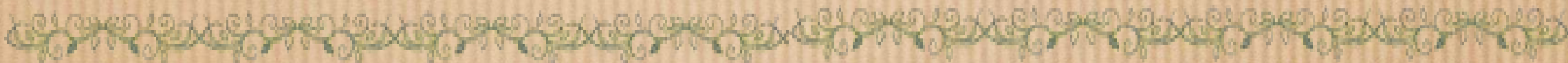


**令和6年度
すくわくプログラム活動報告書
(実施対象:3~5歳児ひかりグループ)**

陽だまの丘保育園



テーマ

SDG s

設定理由

キャップの回収箱を見つけ、たくさん集めるとワクチン一回分になることを知ったため。

活動のねらい

SDG sに触れる活動を通して、自分たちができることはなにかと考える。

対象クラス

幼児クラス20名（内訳：3歳児/6名 4歳児/7名 5歳児/7名）

スケジュール

令和6年4月～令和7年3月

興味・疑問



話し合い



イメージを形へ



皆で集めて、世界の
子どもの命を救いたい！

- ・散歩で通った工事現場でキャップの回収箱を見つけ、『キャップを集めて入れに来たい！』という声や“860個集めるとポリオのワクチン1回分になる”と記されている文字に興味を抱く。
- ・海外には予防接種を受けられず命を落としている子どもがいることを知り、“助けたい”という思いから、いっぱい集めるために他クラスにも協力してもらおうと意見が出て、回収箱作りが始まる。

環境のために準備した
素材や道具

段ボール、ビニールテープ、画用紙、ペン

子どもたちの育ち

- ・キャップで救える命があることや病気の内容を知り、慈愛の気持ちが芽生え始める。
- ・互いの意見や思いに触れ、考えを伝えたり、受け入れたりする心地良さを味わう。



キャップで作ったから
東京タワーに
遠足へ行きたい!



- 子どもの呟きから、キャップを数えてワクチンにするだけでなく別の形で再利用してみることで、パズルやアクセサリ、立体の東京タワーなどを工夫しながら作ったり、友だちとイメージを擦り合わせながら協力したりして、イメージしたものを形にする面白さを味わっている。
- 東京タワーを作ったことで、タワーについて知りたいと遠足の行き先が東京タワーに決まる。当日質問する内容を自分たちでメモし、情報を得ようとしている。

環境のために準備した
素材や道具

キャップ、ボンド、ビーズ、段ボール、ビニールテープ

子どもたちの育ち

- 友だちの制作したものを見たり、アイディアに触れたりしたことで、友だちの良さに気づき、相手のことを認める姿が見られる。
- 互いのイメージを言葉にして伝え合うことの難しさに葛藤しながらも、相手の意見に耳を傾けることで、自分には思い浮かばなかった考えを知り、協働する楽しさを知る。

キャップアート

遠くから見る方が形が
はっきりして見えることを発見！



花



文字

絵の場所に
キャップ置こう！

東京タワー



虹



- ・休日、街でキャップアートを見かけた子どもの発言をきっかけに、自分たちも作ってみたいと挑戦しようとする。
- ・遠足の風景を思い起こしながら、作りたいものをイメージし、配色やバランスを見ながらキャップで表現していく。

環境のために準備した
素材や道具

キャップ、段ボール、ボンド、ペン

子どもたちの育ち

- ・友だちと意見を交わしながらイメージを共有して作ることで、コミュニケーションを深めている。
- ・作ってみたい、表現したいなどの欲求と、使い方が限定されていない素材（キャップ）があることで、創造的に表現することを楽しんでいる。

キャップを数える



数への興味



ワクチンに寄付

たった1本のワクチンで、
助かる命がある。

慈愛

ワクチンを見える化する



友だちと共通理解

21人分の
ワクチンに
なったよ!!

- キャップの数を数える際は、100個ずつにすると、860個が数えやすいという意見が挙がり、100個の袋を作って数えようとする。
- 20人分のワクチンを寄付しようと皆で共通の目的に向け、協力し合う。

環境のために準備した
素材や道具

キャップ、画用紙、ペン、袋

子どもたちの育ち

- 100個を数えるために10個や20個などの単位に分けて足し算をするなど、数を数える概念を理解する。
- 何のためにキャップを集めているのか、子どもの思いをもとに、目的に意味づけをすることで、達成に向けて皆で数を数えたり、呼びかけのポスターを直すなど共同性が育まれている。

全体の振り返り

・キャップで救える命があること、ワクチンがなく自分たちと同年齢の子どもが命を落としてしまうことがあると知り、皆で協力して集めようと目的に向かって協働する姿が見られた。また、子どもたちの自由なアイディアやデザインをもとに、キャップを別の形に変え、再利用するアップサイクルにも興味を持ち、取り組んだことで、物を大切にすることを学んだ。友だちとイメージを共有する中でやり取りを重ねるうちに、相手の得手不得手を知り、補い合いながら進めていくなど、人間関係の深まりを感じる。

